

新理事就任ご挨拶

特定非営利活動法人スペシャルオリンピックス日本・長野

理 事 杉 本 幸 治

このたび、新たに理事に就任しました杉本幸治です。

突然の指名で恐縮とともに、お役にたてるかどうか心配をしています。

私がSO活動を知ったのは、1998年に開催された長野オリンピックの組織委員会でボランティア関係の仕事に関わっていた時でした。大阪のボランティアの方から、パラリンピックのほかに、知的障がいの皆さんを対象にしたスペシャルオリンピックスという世界大会が開催されていると聞いたのです。

その世界大会が2005年に長野で開催されるとは、よっぽどの縁があったのでしょうか。大会の期間を通し、エムウェーブにボランティアとして夫婦で参加しました。競技種目はスケートでした。ディビジョンングが行われ、競うことよりも表彰を大事にする大会という印象を受けました。

大会期間中に、SO活動に関わっている皆さんとの出会いがありました。東京でバスケットのプログラムを行っている諏訪なほみさんから、「この活動は楽しいから駒ヶ根でも始めて下さい。」と言われました。

大会が終わりしばらくたった頃、ボランティアで参加した人を中心に、駒ヶ根プログラムとして卓球を始めたいとの話を持ち上りました。早速コーチクリニックが開催されました。その時の講師が諏訪さんでした。偶然とはいえこれも縁だと思い、コーチとして駒ヶ根プログラムに参加しました。

どのように進めたらよいか模索しながら、週1回のプログラムが始まりました。最初はラケットに当ることもできなかったアスリートが、日に日に上達し、1年が過ぎた時には親から離れて宿泊訓練。2年目には千葉での交流大会に参加、そして試合に敗れれば「くやしい、次は勝ちたい」と大きく変化する姿にふれ、この活動の意義を実感しています。

今、長野県において多くのプログラムが行われています。今まで関わってきた経験を生かし、少しでもお役にたてればと思っていますので、よろしくお願ひいたします。

特定非営利活動法人スペシャルオリンピックス日本・長野

理 事 松 井 元

この度、スペシャルオリンピックス日本・長野の理事に就任しました松井元です。

日ごろ、皆様の活動につきましては地区プログラムの一員として関わらせていただいております。'05の冬季世界大会を長野で開催したあの日から、長野県内だけでも数々の地区プログラムが立ち上がり、SOの広がりを感じられるることは非常にうれしいことと感じております。また、その反面スペシャルオリンピックスの活動内容まで知っている人はまだまだ少数です。

障がいの有る無しに関係なく、みんなで楽しく活動し、理解が深まっていくよう、理事として広告塔となり各地でPRし、スムーズな組織運営が行えるようマネジメントの観点からもバックアップしていきたいと考えています。みなさまとともに活動していくので、何卒よろしくお願ひいたします。



2009年第9回世界大会アイダホ



世界大会アイダホ 長野選手団・アスリート成績

● 萩原淳一さん スノーシューイング	200M 4位 400M 8位 400Mリレー 1位
● 大井大輔さん フィギュアスケート	シングルス 2位
● 中田裕美さん スノーシューイング	100M 4位 200M 5位 400Mリレー 2位
● 中村文昭さん クロスカントリースキー	50M 4位 100M 3位
● 丸山智之さん アルペンスキー	GSL 5位 GS 4位

● 2009年冬季世界大会に参加して

SON・長野 スノーシューイング・コーチ 山田清美

2月2日の結団式に始まった世界大会は、ホストタウンプログラムを加えて約2週間という長い期間となりました。私にとって世界大会への参加は、一度は経験したいと思っていた夢でした。それが今回この様なチャンスを頂き、多くの不安はありましたが、思いきって参加して本当に良かったと思っています。今まで経験したことのない貴重な体験を多く出来た事は、間違いなく私の人生の1ページに書き加えられました。

スペシャルオリンピックスの大会ならではの素晴しさを感じたのは、ホストタウンプログラムでした。ウェザーと言う町の人々との交流は、アスリートはもちろんコーチにとっても心暖まるものでした。また高校生との交流は、競技会場への応援にもつながり、アスリートを更に元気づけてくれました。

大会を振り返ってみて、私自身コーチとしてどのくらいアスリートをサポートできたかは疑問ですが、今の私に出来る範囲で精一杯やれたと思っています。アスリートと共に泣いたり笑ったりの2週間でしたが、体調を崩すこともなく大会を楽しんできました。この経験を更に次のステップにつなげていけたらと思っています。最後に、応援してくれた多くの皆さんに深く感謝いたします。

● 冬季世界大会の応援に参加して

さる、2月7日から2月13日までアメリカのアイダホ州ボイジをメイン会場に行なわれた冬季世界大会に、応援のツアーで行ってまいりました。途中からの参加の為、フロアホッケー、クロスカントリースキー、閉会式のみの応援でしたが、世界中のアスリートがそれぞれの種目に目標と誇りを胸に参加している姿を見ていると、とても嬉しい気持ちになりました。

ファミリーや観客の応援のスタイルは各々に違いがあり、興奮のあまり国の名前を連呼(望ましくない姿ですが)して応援に熱中するグループ、ゴール寸前の観客席で、目の前を通り過ぎてゆくどこの国かも解らないアスリート達の為にその場にいる観客、ファミリー、出場種目の無かったアスリート達が”GO!GO!GO!”と連呼しながら応援している姿には、とても感銘を受けました。

試合会場などにおいて、怒ったり、怒鳴ったりして周りを不安にさせるような姿は一度も無く、どこの国もコーチはアスリートを暖かく見守り、ボランティアの人達も急がず慌てずにアスリート達を笑顔で包み込んで、スタート前の緊張と寒さのアスリートをリラックスさせている姿はとても微笑ましいものでした。

そして私たちファミリーにもボランティアの人達は、ほんとうにやさしく笑顔で声を掛けられていて、異国の地に来た人を心からもてなしていただきました。お互い言葉が解らなくても心と心が通じあれば、わかりあえることを実感することができた大会でした。

今回、ボランティアの人達は自分自身も心からとても楽しんで参加しているようにも思えたとても素晴らしい大会でもありました。

SON・長野 クロスカントリースキー・コーチ 森 恵美

約2週間というスケジュールで行われた、’09世界大会・アイダホが無事に終了しました。

2月3日に現地入りした私たち選手団は、その日からホストタウンプログラムが始まり、一般家庭のお宅にホームステイをしながら、学校見学などをとおして地元の方々と深い交流ができました。会話などに関して最初こそお互いに緊張していたものの、ホストタウンの方々の温かい心のこもったおもてなしにその緊張も溶け、別れは涙となりました。

7日には開会式が行われ、その後7競技それぞれの会場に分かれ競技に臨み、クロスカントリースキーは4名のアスリート全員が最高の笑顔とパフォーマンスを見せてくれました。

私にとって初めての世界大会で不安もありましたが、ホストタウン、競技会場などのボランティア、スタッフ、応援の方々の優しさや絆を肌で感じることができ、本当に言葉では言い表せないほどに感動しました。Team2009が解散し寂しい気持ちもありますが、今回得たものをSO等の活動で活かしながら、アスリートのみなさんに負けないように私自身も成長していきたいと思います。

SON・長野 ファミリー 中村晴文



● アイダホの感想

SON・長野 軽井沢 アスリート 丸山智之

スペシャルオリンピックス世界大会は楽しかった。もう1回いきたい。ホストファミリーのロバートさんとノラさんがとても優しくてうれしかった。アメリカは良かった。大会も良かった。飛行機も揺れたけど楽しかった。メダル取れなかったけど、でももう1回行きたい。



SON・長野 軽井沢 アスリート 萩原淳一

世界大会で金メダル取りました。いろいろな国の選手に会ってきました。



SON・長野 軽井沢 スノーシューイング・アスリート 中田裕美

開会式の時、私はドキドキしました。私は、スノーシューイングの100Mと200Mとリレーに出場しました。200Mは5位で100Mは4位、そしてリレーは2位でした。走っているときは疲れるけど、ゴールのときは嬉しかったです。

私は聴覚障がい者ですので、アメリカのろう者のアスリートに会えて嬉しかったです。

ホームステイは、シズさんの家に泊まりました。ベッドがとても大きくて枕が3つもありました。とても楽しかったです。



SON・長野 長野 アスリート 中村文昭

私はアイダホにいてクロスカントリーをやりました。にほんのクロスカントリーのアスリートがメダルをとったとき、私はりぼんでした。つぎはメダルかびれてよかったです。

ほかのくにのアスリートやホームステイをしたおうちのひと、コーチ、たくさんともだちができました。みなさん おうえん ありがとうございました。

なかむらふみあき



SON・長野 長野 アスリート 大井大輔

冬季世界大会・アイダホ

行ってきました。

僕は、フィギュアスケートに出場して銀メダルをもらいました。とてもうれしかったです。今度は、金メダルをもらえるように、いっぱい練習がんばりたいです。 大井 大輔



SON・長野設立10周年記念 2008年第2回スペシャルオリンピックス日本・長野 夏季地区大会

2008年第2回スペシャルオリンピックス日本・長野 夏季地区大会を終えて

上田地区プログラム 大会実行委員長 宮下和彦

2008年9月7日、上田市にて開催されました夏季地区大会には県内の7地区・SON愛知・SON富山より参加のアスリート120名、ファミリー、ボランティア約200名の参加のもとにバスケットボール・テニス・水泳・陸上競技・



ボウリングの5種目の競技が行われました。いままでもなくSOの競技会は日常的なスポーツトレーニングの成果の発表の場でもあり、また競技会を通して地域のコーチ、ボランティアとの交流の場でもあります。日頃の練習の成果以上の記録を出せたアスリート、大勢の応援のなか緊張し日頃の成果が出せなかったアスリート、皆、結果は様々でしたが楽しい思い出が作れたかと思います。もちろん今回の競技会に参加したボランティアの皆様もアスリートの成長に感動し勇気付けられた1日であったかと思います。当日は、天候にもめぐまれ各競技会場では歓声があがっていました。あらためてSOのすばらしさを実感できた1日ではなかったでしょうか。また日程等の都合で同時に開催できなかった卓球の競技会も10月25日駒ヶ根市にて実施され盛大に楽しく開催されましたこと、あわせてご報告いたします。SON・長野設立10周年を記念し計画されました今回の競技会を盛り上げていただきました上田市・駒ヶ根市はじめ、大会開催に協賛・ご協力いただきました企業・団体・個人の皆様、夜遅くまでの打ち合わせ、各担当での事前・当日の準備等でご尽力いただきましたすべてのスタッフの皆様に心より感謝申し上げます。



初めての大会「楽しかったな♪」

上田地区プログラム ボランティア 倉島紗弥香

県内外から多くのアスリートが参加するこのような大きな大会に、日常プログラムに参加してから半年の私が務まるか心配でしたが折角の機会なので思い切って参加させて頂きました。

私はバスケットボールのボランティアに参加させて頂きました。バスケットボールはチーム競技と個人競技の2つがありました。お手伝いさせてもらっての率直な感想は、アスリートの方々はとても生き生きとしていて、時には負けて悔しそうな表情をしていても、精一杯やったという達成感が見られ、見ている私もとても幸せな気分になりました。

閉会式に参加していた多くのアスリートの表情は満足感に溢れ、どの競技もいい大会ができたんだなあと感じました。

今大会全体を通じて感じたことは、SOに参加している人たちは体全身で伝える不思議な力があるということです。私はこれからもこの活動に携わり、一人でも多くの人に広めたいと考えています。

夏季地区競技会卓球部会in駒ヶ根

駒ヶ根地区プログラム 代表 堀内豊彦

10月25日駒ヶ根市の市民体育館に於いて駒ヶ根市長はじめ、長野・上田からの皆さんが応援に駆けつけていただきました。また、ボランティアとして市内の5つの小中学校の子供たちと福祉系サークルや市体育協会審判の皆さんの参加で盛大に開催されました。

卓球プログラムが始まって4年、アスリートの皆さんの成長は目を見張るほど進歩しました。卓球台からこぼれた球を見ているだけだった皆さんが真剣に球を追い、時にはウルトラCのプレイが決まるとも。今年は特製聖火台とトーチで点火式から始まり、途中では市長さんも一緒にになり陣取りゲームなどのアトラクションで楽しみました。卓球プログラムは県内には他にないため外の風に当たることが少ないので、来年のナショナルゲーム（大阪）に向け本年は他県の競技会にも参加してみようと思ふ特訓中。



SON・長野 上田 アスリート 李郁

SO長野夏季地区大会で
ほくはボランティアに出ました。
うまくでもました。
メダルをもらはました。
学ぶ先生とともにだらけ見せました。
みんながすごいとほくはくしゃいました。

李郁

SON・長野設立10周年記念 『井上あづみ』チャリティコンサート

「10周年記念コンサート」報告

長野地区プログラム 代表 新井 昇

10月11日（土）、長野市民会館でSON・長野10周年を記念して、「となりのトトロ」の主題歌でおなじみの井上あづみさんのコンサートを開催いたしました。このコンサートは、単にチャリティとして活動資金を集めるだけでなく、SON・長野の活動を再度長野県民の皆様に周知を行い、10年という節目を新しいスタートとしていく為に行うという目的があり、その為に、事前に信濃毎日新聞全県版一面広告を出しました。当日は長野地区ファミリー、ボランティアの皆様をはじめ、県内他地区の皆様、事務局のご協力のお陰で800人の動員がありました。コンサートに先立ち、SON・長野の10年の歩みの放映、SOI冬季世界大会アイダホに参加する皆様の壮行会を行い、その後、井上あづみさんに歌っていただきました。来場された皆様には、大いに楽しんでいただけたと思っています。コンサート開催にあたりご協賛いただいた企業の皆様、企画運営を行っていただいた（株）ながのアドビューロのご担当者様、共催いただいた信濃毎日新聞社様、長野地区ファミリー、ボランティアの皆様、そして事務局に御礼を申し上げ報告といたします。

SON・長野全県合宿 いいだ

SON・長野全県合宿in南信州

いいだ地区プログラム 事務局 倉田賢治

平成20年10月4日・5日、下伊那郡松川町にある松川青年の家で、SON・長野の全県合宿が開催されました。長野県内各地区から大勢のアスリート、コーチ、ボランティアの方々にお越し頂き、晴天に恵まれ楽しい合宿となりました。



今年は1日目はグループに分かれての個別活動を、2日目は全員で一緒に運動会風のレクリエーションを企画しました。

1日目、個別活動は事前に希望を取って、マレットゴルフ・バターゴルフ・水泳・温泉の4つの活動に分かれて、グループのメンバーとの交流を兼ね、それぞれが楽しい時間を過ごしました。ただ、SOの合宿はただ楽しいだけのイベントではありません。コーチにとってもアスリートにとっても、宿泊訓練的な意味合いを持っています。そうは言っても、せっかくの泊まり、夜はキャンプファイヤーを囲んでのフォークダンスです。いいだ地区プログラム宮下代表のギター弾語りに乗って、皆で歌って踊って夜のひと時を過ごしました。

2日目、天気も良かったのでグラウンドでレクリエーションを行いました。ポールウォーキングというニュースポーツの体験もありました。他にも玉入れや大玉送りと、参加者全員が一生懸命に取り組む姿が印象的でした。

2日間を終えて、参加アスリートに合宿の感想を聞くと「楽しかった」「また来たい」という声が多くありました。企画する側として、この上ない嬉しさを感じました。この合宿ではいいだ地区プログラムの運営委員、ボランティアを始め、飯田女子短大の学生ボランティアなど、多くの方にご協力いただき、これだけ盛大に行うことができました。アスリート、ボランティアともに、成長できた合宿になったと思います。ご協力いただいた方々、そしてこの合宿に参加され、盛り上げてくださった全ての参加者に御礼申し上げます。

教育プログラム

SOゼミについて

信州大学医学部保健学科 佐藤陽子

「スペシャルオリンピックスで学ぼうゼミ」は、全学部の1年生を対象に開講された科目です。クラスは定員20名と少数ですが、スポーツを介してアスリートと触れ合う経験は、学生にとって何物にも代え難い貴重な経験になっています。学生が受講科目の中で最も楽しかった・最もおもしろかったと語るのは、アスリートとの関わりから多くのことを学んだ結果でしょう。

学生はまず、SOの成り立ちや歴史、その概要、ボランティア活動や知的の障がいなどの講義を受講します。その後、実技にフロアホッケーを体験し、そのルールやマナーを学びます。授業のメインであるアスリートとの日常プログラムは3回以上の出席が課せられていますが、多くの学生は回数に関係なく積極的に参加しています。多分それはアスリートの魅力に魅かれているからだと思います。活動後に提出されるレポートには、障がいに対する偏見差別についてあらためて思いを巡らせる、障がいとは何かを真摯に考えるなど、若い感性に裏打ちされた率直な意見や感想が多く見られます。

授業の後半には演習のグループワークがあります。3、4名で構成されたグループが、テーマ別に討論を重ね、文献を中心に報告書を作成します。今年度のテーマは、自閉症とは、注意欠陥多動性障害とは、障がい者とスポーツ、障がい児の特別支援教育の4テーマでした。スライドによる発表では、緊張感とともに堂々と発表していて充実感にあふれています。

SOゼミは、講義、実技、日常プログラム活動、演習とその授業形態は多岐にわたりますが、アスリートとの交流が、最もインパクトの強い新鮮な経験として学生の心にいつまでも残る授業ではないかと思っています。

信州大学教育学部附属長野中学校 教諭 井沢 誠

信州大学附属長野中学校では、SON・長野の協力を得て、1月14日に細川先生よりご講演をいただく機会に恵まれました。自分の25代前のご先祖様は何人いるだろうかという問い合わせから講演会は始まりました。答えは、3,355万4,432人。生徒の感想で「今の自分がいるのは、多くの先祖からの命を受け継いでいることがわかりました。自分の命を大切にしたいです。」とありました。どの人が欠けても自分はなかった、自分はかけがえのない命をつなげていることを実感した瞬間でした。また、「SOで一番大切なのは、ナンバー1ではなく、オンリー1を大切にすること」。勝ち負けはなく、頑張って大会に出場し、どんな失敗をしても普段の練習の成果を発揮できたときに選手はだれもが表彰される。そんなお話をたくさんのお話をたくさんの方へお話しすることができました。



折しも、隣接する附属特別支援学校の2名の生徒が、アスリートとしてアメリカで開催される世界大会に参加する時期と重なっており、壮行会をもたせていただきました。「障がいのあるなしに関係なく、スポーツを通して一緒に活動したり、もっと触れあったりして、みんなが楽しく過ごせる日本を作りたいです。」細川先生の言葉から、まずは私たちが一緒に参加することが大切であるという思いをもつることができました。ある生徒が、感想で次のように書いていました。「人をうち負かして勝利するのではなくて、昨日の自分に勝つことがSOの考えだと知りました。なによりも、思いやりをもって相手と自分を大事にできる人になりたいです。」温かい気持ちをもって講演をお聞きすることができました。ありがとうございました。

軽井沢ユニバーサル スポーツ祭

「第2回軽井沢ユニバーサルスポーツ祭」開催

軽井沢地区プログラム 代表 小松紀男

平成20年8月31日(日)軽井沢・風越公園アリーナで選手、協力者を含め総勢400人余り(第1回は300名)の人が町内はじめ近隣市町村から参加し「第2回軽井沢ユニバーサルスポーツ祭」が賑やかに開催された。

「軽井沢ユニバーサルスポーツ祭」は「SOの浸透と普及を図り、障がいのある人ない人、子どもから高齢者、そして国籍を問わず、老若男女、誰でもが参加でき、スポーツを通して交流を深め、垣根のないユニバーサルな社会を目指す」を開催趣旨に、SO支援機構の支援を受け、軽井沢町をはじめ町内外の多数の団体の後援を頂き、軽井沢プログラムが主催した。

むかでリレーやフロアホッケー、鬼追い玉入れ、パン喰い競争など、誰でも気軽に参加できる6種目で競いあった。昼休みはフラダンスと一緒に踊ったり、可愛い少女のチアリーディング、本格的な「長野レンジャーズ」によるチアリーディング等のアトラクションもあり大いに盛り上がった。

競技の最後にムカデジャンケンを行い、全員が手を繋ぎ大きな輪になり全員で「世界に一つだけの花」を合唱、「楽しかった」「大勢の人と交流できた」「来年が楽しみだ!」「来年も開催してよ」という声の中フィナーレ。年齢や障がいを超えてスポーツを楽しんだ1日でした。

初めて出会った者同士が共に一つのことに取り組む機会が少ない中、このユニバーサルスポーツ祭での出会いの一つ一つが、誰もが住みやすい社会作りに向けた一助となれば幸いです。



設立準備委員会発足!

SOいほく設立準備委員会発起人 小口明人

昨年4月、SOいほく設立準備委員会として活動を始めました。最初のうちは、体育館の片隅で、フロアホッケーのスティックを持ってバックを少ない人数でバスしあうところからでした。今では小学生から社会人までのアスリートが少しづつ増えて来ています。又、地元の高校生が、クラブ活動の一環として参加してくれる様になり、ファミリーも含めて約30人で月2回プログラムとして活動しています。地域のふれあい広場、中学校での体験会等を通して、少しづつ活動も知ってもらえるようになりました。今年は準備委員会からSO日本・長野の一地区として正式加盟して、夏の競技であるバスケットもプログラムに加える予定です。スポーツをするだけでなく、グランセローズの応援に皆で行ったり、新年会で食事をしてゲームも楽しんできました。他の県のアスリート、他の国のアスリートとも交流できることも夢として、一步一步少しづつ活動していきます。

第3回中信地区 フロアホッケー大会

フロアホッケーで心ひとつに

しおじり地区プログラム 事務局 百瀬一典

SOデーにあわせ、フロアホッケーの普及と交流のため毎年開催されている中信地区フロアホッケー大会が、11月23日、松本歯科大学体育館において開催され、今年で3回目を数え、少しづつ地域にも広まりを感じ定着しつつある大会になってきました。

今年は、SOチーム、学校、一般チーム計12チーム200人が参加し、午前中にディビジョンによる組分けで試合を行い、午後は今年初めての試みで全チーム混ぜこぜで6チーム編成し、インクルージョンとして試合を行いました。ほとんどの人が初めて顔を合わせる人達で、いささか心配しましたがなんのその。アスリートも学生も一般の人も見事にチームとして機能し、それぞれに力を合わせてバックを追う姿に、新しいスペシャルを発見した気分でした。

普段アスリートが、なかなか別の人達と試合をする機会はめったにありません。練習では見ることのできないアスリートの積極性やチームとしての協調性。常にアスリートから感動や、次へのステップの元気をもらい、改めてスペシャルオリンピックスの素晴らしさを感じさせてもらいました。

また、鉢盛中学、志学館高校、信州大学の学生さんがボランティアで参加し、松本プログラムの努力によって行われているSO学校教育プログラムが、地道ではありますがスペシャルの輪として子ども達に広がっていてうれしく思います。みなさん、これからもがんばってSOの輪を広げていきましょう。



小諸設立準備委員会発起人 荒木貴志

小諸地区プログラム立ち上げ準備とし、平成18年から陸上体験会、フライングディスク体験会、ボウリング体験会を行い、ファミリー・ボランティア対象とした説明会を、二度行つきました。体験会の参加アスリートは、10名を超える盛況ぶりで、皆SOへの参加を期待していました。

しかし、私事になってしまいますが、育児が始まり、仕事にも忙しさが増し、共に活動していたボランティアさんも、ご結婚されたりとここ2年ほど活動できずにいました。

昨年末には、小諸市社会福祉協議会主催であるふれあい祭りにブースを出店する機会があり、たくさんの方に10周年記念Tシャツを購入していただき、たくさんの方にスペシャルオリンピックスという名称を知っていただける機会となりました。中には施設関係の方が、何か手伝うことはあるか? とか、どんなことしてるの? などなど、興味をもたれている方もたくさんいらっしゃったことに驚かされました。

21年度には、小さな一步を踏み出し、出来ることから始めて行こうと思っています。他地区プログラムの方々にもご協力いただかかと思いますが、よろしくお願ひ申し上げます。

たくさんの御好意ありがとうございます。

贊助會員

※色えんぴつ16号後、2009年3月20日現在の入金ですが、
万が一記載もれがありましたらお許し下さい。

贊助企業・团体

社川岳 会松仙 限有里社

ソ・ス・イ・ツ・カ・ム・ニ・ツ・シ・ツ・イ・ツ
ソ・ス・イ・ツ・カ・ム・ニ・ツ・シ・ツ・イ・ツ

社会福祉法人明星会明星学園
社会福祉法人明星会第二明星学園
軽井沢口二タリークラブ

寄付

セイコーエプソン株式会社
国際ソロブチミスト千曲

Able 上映実行委員会
鉢 盛 中 学

国際ソロプチミスト長野

社員

幸聖ゆ利
本橋澤石井田
杉高瀧根松美
臣司也貴美
泰篤久武直

幸嘉紀龍豐
小宮山村松屋
中小土閔
則美太樹茂
享紀健芳文

香小西内村
夫文枝子豊
隆晴幸郁
村橋出田
関中高小吉
彦美智雄務
和清忠
下田下沢遺
宮山宮宮渡

かおり



[日記]

日付	事柄
6/28土	コーチクリニック・フロアホッケー(いほく)
7/6日	チャリティボウリング大会(長野)
8/31日	第2回軽井沢ユニバーサルスポーツ祭
9/7日	SON・長野設立10周年記念 夏季地区大会(上田)
9/19金~21日	冬季世界大会 日本選手団合宿参加(大阪)
10/4土・5日	SON・長野合同合宿(いいだ)
10/11土	SON・長野設立10周年記念チャリティコンサート
11/1土・2日	SON・愛知「第1回東海・北信越ブロックボウリング競技会」参加

日付	事柄
11/16日	チャリティコンサート(SONN・軽井沢)
11/23日	中信地区フロアホッケー大会
12/26金~28日	冬季世界大会 日本選手団合同合宿参加(白馬)
1/10土~12月	冬季世界大会 日本選手団合同合宿参加(飯綱)
1/31土	SON・長野 総会
2/6金~13金	第9回冬季世界大会アイダホ 長野県選手団7名参加(アスリート5名・コーチ2名)
3/15日	コーチクリニック・フロアホッケー(上田)
3/29日	フロアホッケー審判講習会(上田)

あとがき

NPO法人 スペシャルオリンピックス日本・長野
事務局長 伊澤 喜久子

昨年、設立10周年を迎えたSON・長野は、それを記念する「夏季地区大会・上田」「井上あずみチャリティコンサート」を成功のうちに終えることができました。これも皆様のご協力の賜物と感謝申し上げます。

また、飯田で開催した全県合宿では、SON・長野のアスリート・コーチ・ボランティアが共に親睦を深め、日頃のプログラムでは味わえない経験と、アスリートの成長の機会となりました。参加してくださった、コーチ・ボランティアの皆様、ありがとうございます。同時に全県のファミリーが集い、それぞれ抱えている悩み、体験談を語り合えたのも有意義なことであったと感想が寄せられております。

「教育プログラム」として、学校でSOに取り組んでくださったり、特別支援学級を併せ持つ学校が、世界大会に参加する同校の生徒さんのために『壮行会』を開いてくださったり、確実にSOの輪は広がっております。

今回は「冬季世界大会・アイダホ」の記事もたくさん掲載いたしました。

また、本年4月25日(土)・26日(日)、善光寺御開帳で賑わう中、世界大会が開催された“ホワイトリング”で『2009年第1回東海・北信越ブロック フロアホッケー競技会』を開催し、他県のみなさまとも交流を深めてまいりたいと存じます。

多数の方の応援・ボランティアでの参加をお待ちしております。



事務局だより 賛助金・ボランティア参加 ご協力のお願い

2009年第1回スペシャルオリンピックス日本 東海・北信越ブロック フロアホッケー競技会開催!
【開催日程:2009年4月25日~26日】

NPO法人スペシャルオリンピックス日本・長野では、2005年長野で開催された「第8回スペシャルオリンピックス冬季世界大会」を記念し、ホワイトリングでスペシャルオリンピックスのフロアホッケー競技会を開催します。

この競技会を通して、アスリートは自立性と社会性を高め、コーチやボランティアを含む全ての参加者が交流し、理解と友好を高めたいと考えています。

是非多くの皆様に賛助金・ボランティア参加のご協力を願っています。

*個人 一口 3,000円 団体 一口 10,000円
*振込口座 郵便振替口座 番号 00500-1-82416
加入者名 NPO法人SO日本・長野
*振込口座 八十二銀行 長野駅前支店 普通預金 488155
特定非営利活動法人 スペシャルオリンピックス日本・長野 理事長 飯島泰臣

〒380-0821 長野市鶴賀上千歳町1120-17 Alegria8F
TEL/FAX 026-225-1550
特定非営利活動法人 スペシャルオリンピックス日本・長野
E-mail : sonagano@avis.ne.jp
URL : <http://www.avis.ne.jp/sonagano/>

このところ、すっかりあたたかくなりましたね。そろそろお花見を…と考えている方もいらっしゃるでしょうか。

アイダホ世界大会ではアスリート・コーチをはじめたくさんの方々が参加し、みなさんが活躍される姿が報道されていましたね。

SO日本・長野もフロアホッケー競技会をはじめ、様々な予定をしています。今後も皆様の元気な姿に出会えることを楽しみにしています。そんな様子を「色えんぴつ」でお届けできたら幸いです。

おおた

編集後記